



中期経営計画

～成長への挑戦～

(2008/4～2011/3)

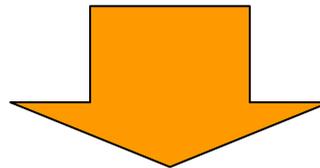
2008年3月24日

 **古河機械金属株式会社**

現中期経営計画（2005—2007年度）の総括

〔経営方針〕

1. 創造的な高付加価値製品・サービスのグローバル展開と収益の拡大
2. 有利子負債削減による財務体質の強化
3. コーポレート・ガバナンスとグループ経営の強化による企業価値の最大化



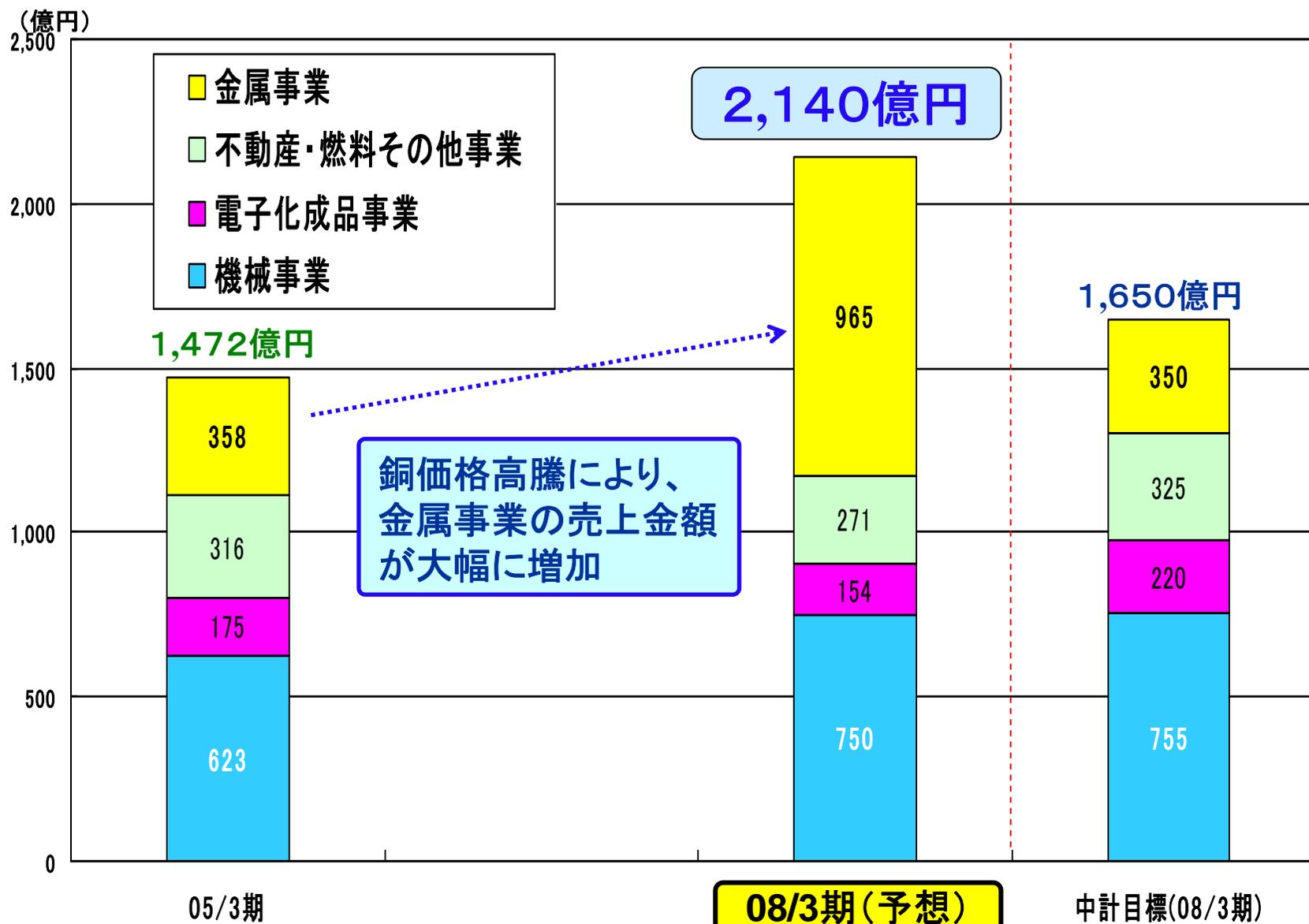
2007年度 連結業績目標

売上高 1,650億円

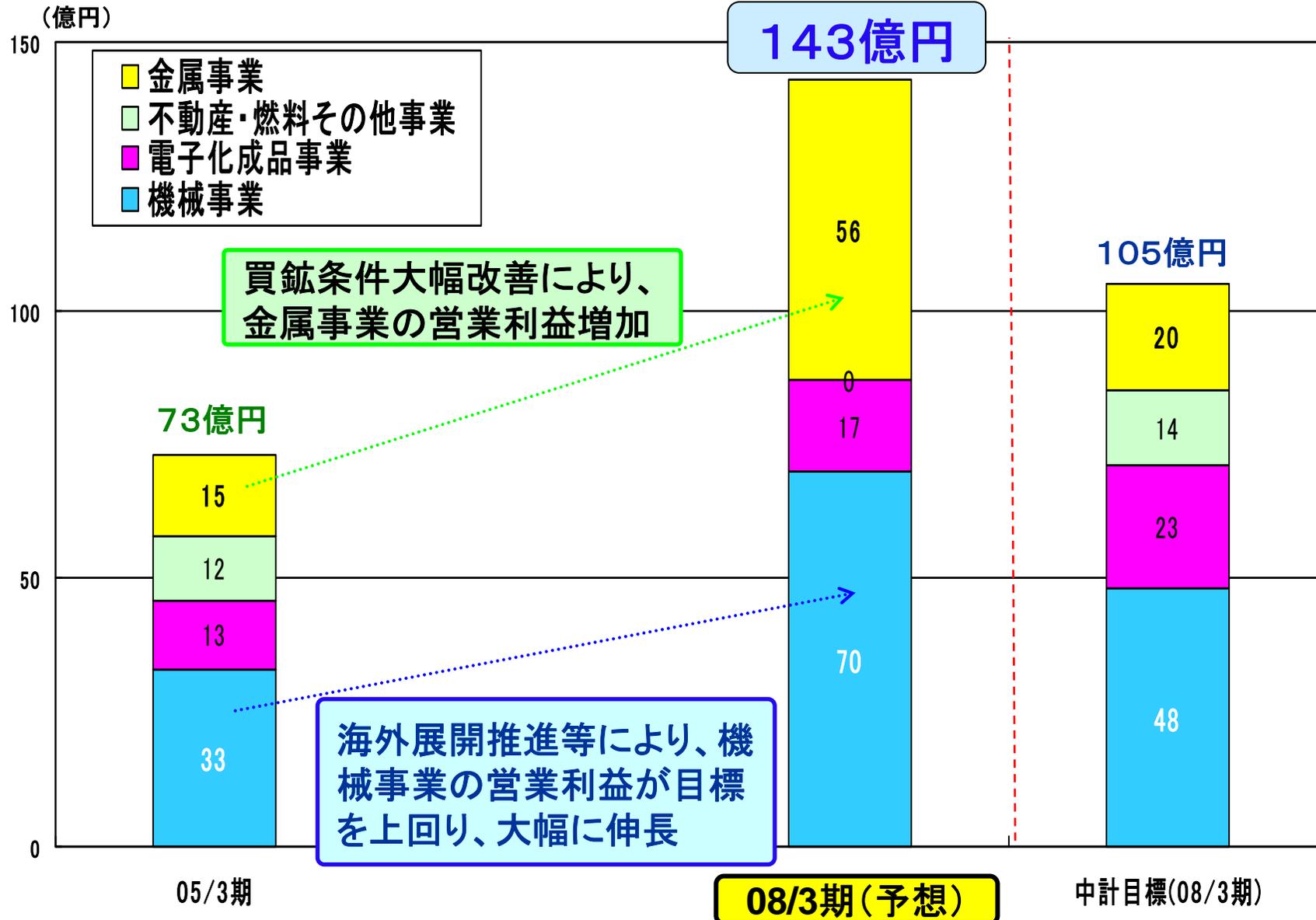
営業利益 105億円

有利子負債 300億円削減

売上高(連結)

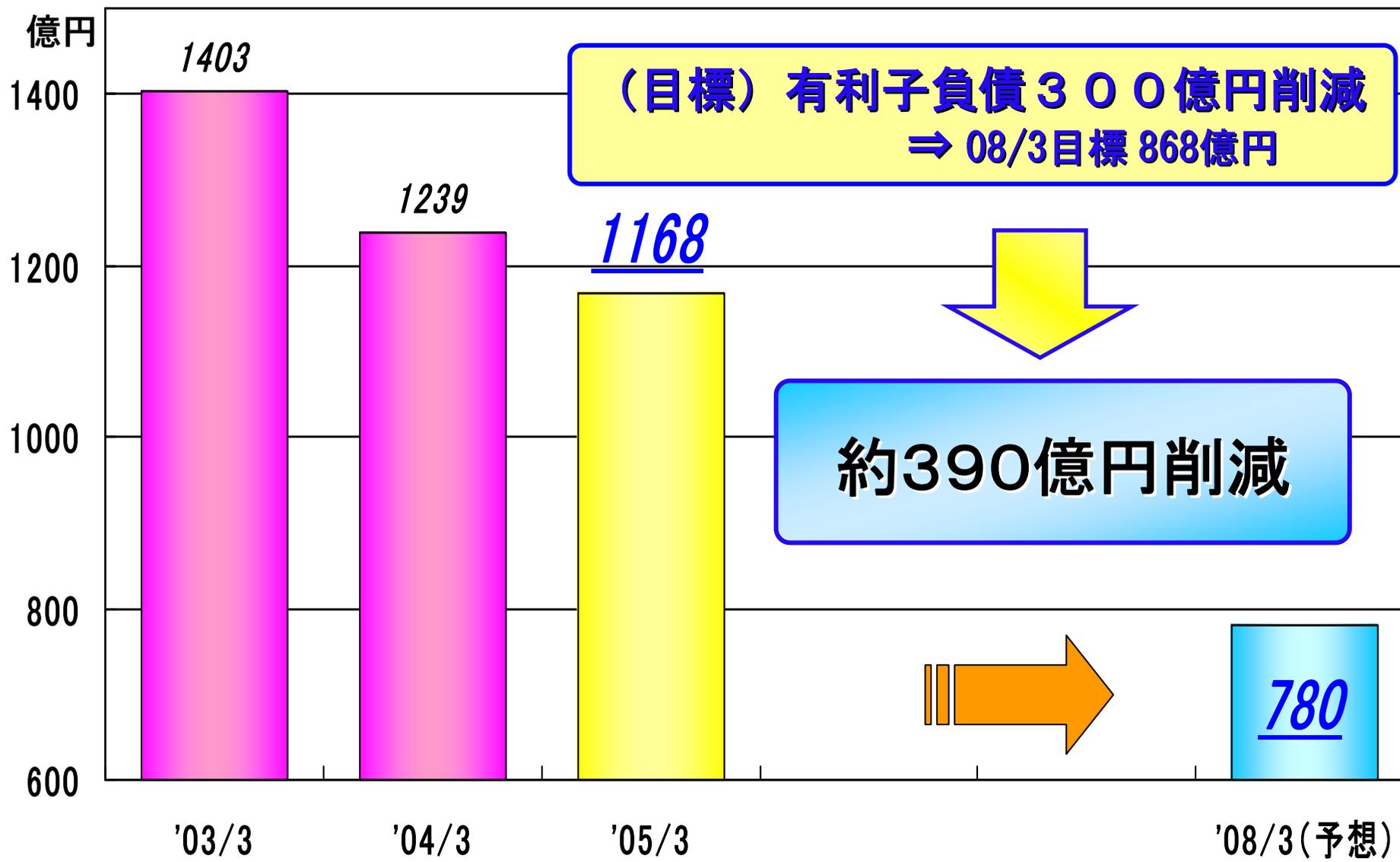


営業利益(連結)



有利子負債(連結)

※有利子負債:社債及び借入金





中期経営計画（2008—2010年度）

—成長への挑戦—

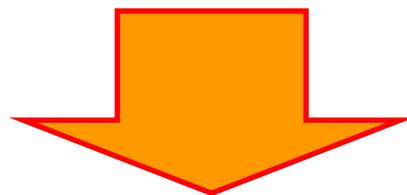
基本方針

1. 機械事業の技術力強化と更なる
海外展開の推進

2. 新製品の事業化に向けた開発の
促進



2010年度 連結業績目標



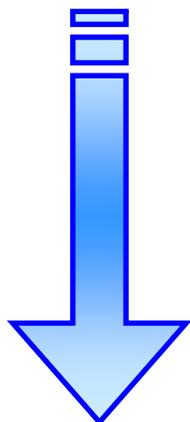
売上高	2300億円
営業利益	150億円
当期純利益	80億円

2010年度の前提条件として、銅価格は6,500\$/t(07年度予想7,409\$/t)、
為替は105円/\$ (07年度予想116円/\$)、155円/€ (07年度予想161円/€)と想定

設備投資(計画) 3カ年累計180億円

中期経営計画 営業利益変動要因

2007年度 連結営業利益（予想）143億円



【変動要因】<機械事業>ロックドリル、ユニック事業海外展開拡大などに伴う売上高アップによる利益増ほか 35億円

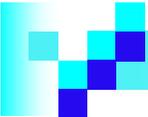
<電子事業> GaN基板などの新製品市場投入に伴う売上高アップによる利益増ほか 6億円

<金属事業> 銅価格スライド部分の撤廃などによる買鉱条件大幅悪化ほか △41億円

2010年度 連結営業利益（計画）150億円



**機械事業において、営業利益100億円以上を
確実に計上できる収益基盤を確立**



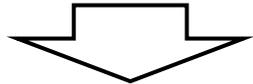
重点施策

1. 本格的なモノづくり
2. 機械事業の海外展開推進
3. 次世代半導体材料等の新製品の開発
と市場投入
4. 成長への本格的な仕組みづくり

(1) 本格的なモノづくり

生産性向上、コストダウン、品質の追求並びに増産設備投資

トヨタ生産方式導入等による生産システム改革
効果的な設備投資



格段の「生産性向上、コストダウン、品質の追求」
並びに増産を図る



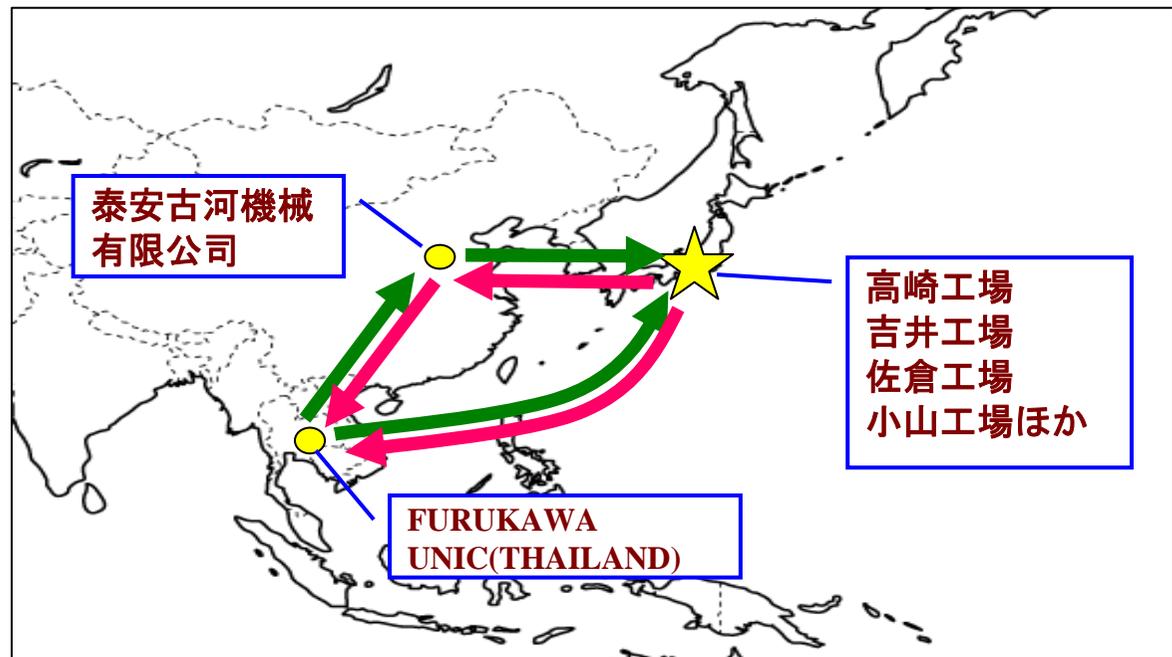
古河ロックドリル(株) 高崎工場

海外子会社工場の活用

最適な生産・調達体制の
構築によるコストダウン



FURUKAWA UNIC (THAILAND)



環境配慮型製品・高付加価値製品の拡充



打撃騒音を低減した
さく岩機
音圧レベルで
30%低減

超低騒音油圧ブレーカ



同体摩擦を利用し、
熱の発生を抑え、
物質の変性を少なく
した気流式粉碎装置

(財)機械振興協会
主催の平成19年度
新機械振興賞受賞

気流式微粉末製造装置



燃費、騒音を低減した
トラック搭載型クレーン
燃費低減率は最大40%

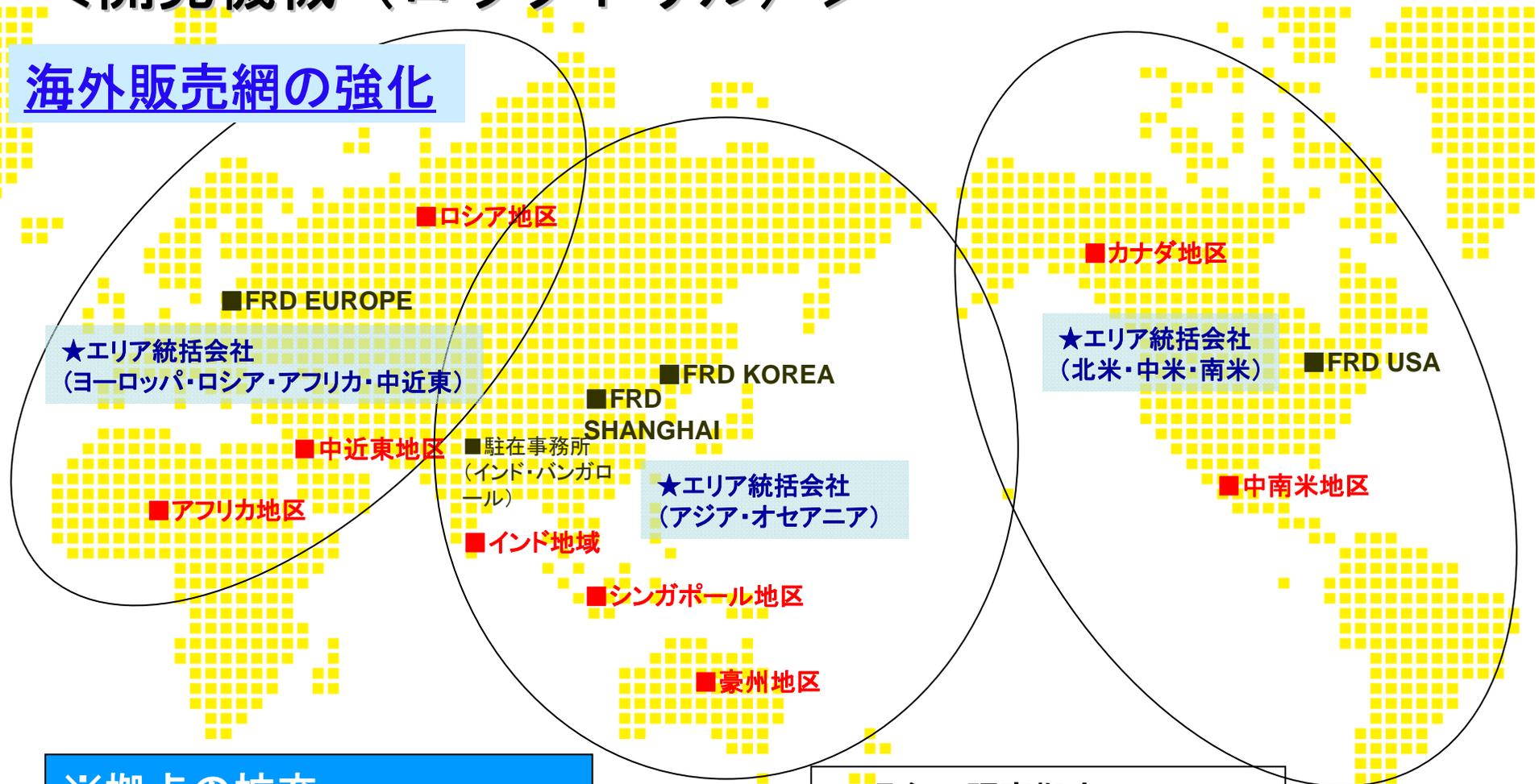
<平成19年度省エネ大賞受賞>

低燃費・低騒音クレーン (U-can ECO)

(2) 機械事業の海外展開推進

< 開発機械 (ロックドリル) >

海外販売網の強化



※拠点の拡充
→エリア統括構想

※販売代理店の育成・指導

- 現在の販売拠点
- 増設予定の販売拠点
- ★新設予定のエリア統括会社

<開発機械(ロックドリル)>

安定市場・急成長市場における拡販と、新規市場の開拓

安定市場 : アメリカ、ヨーロッパ、韓国、タイ、マレーシア
急成長市場 : 中近東、中国、トルコ、南アフリカ、インドネシア
新規市場 : インド、ロシア、ベトナム、オーストラリア、
ブラジル、アルゼンチン、他



油圧ブレーカ



油圧クローラドリル



ダウンザホールドリル

世界シェア<ブレーカ・クローラドリル>
2007年度(見込) 30% →2012年度(5年後) 40%

<ユニック>

世界5極を中心とした海外
販売拠点を拡充・強化

世界5極 : 北米、ヨーロッパ、
アジア・オセアニア、
ロシア・CIS諸国、中近東



海外市場への
ユニッククレーン
認知度向上

販売促進活動を強化し、
折曲げ式クレーン主流の
各海外地域への認知度
向上を目指す



バウマ・チャイナ(中国)出展



CONEXPO(米国)出展

海外売上高比率

2007年度(見込) 20% → 2010年度 40%

<ユニック>

世界5極を中心とした海外販売拠点を拡充・強化

<ヨーロッパ>

2社

■支店(リヨン)

<ロシア・CIS諸国>

8社

<アジア・オセアニア>

11社

◆泰安古河機械有限公司

<中近東>

5社

◆FURUKAWA
UNIC (THAILAND)

■UNIC SALES
(THAILAND)

<北米>

2社

◆工場

■拠点

主要販売店数



ユニッククレーン(トラック搭載型)



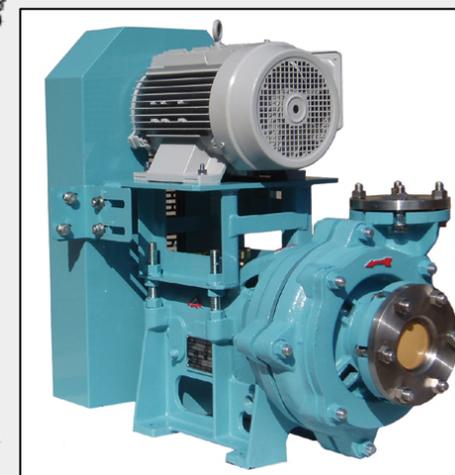
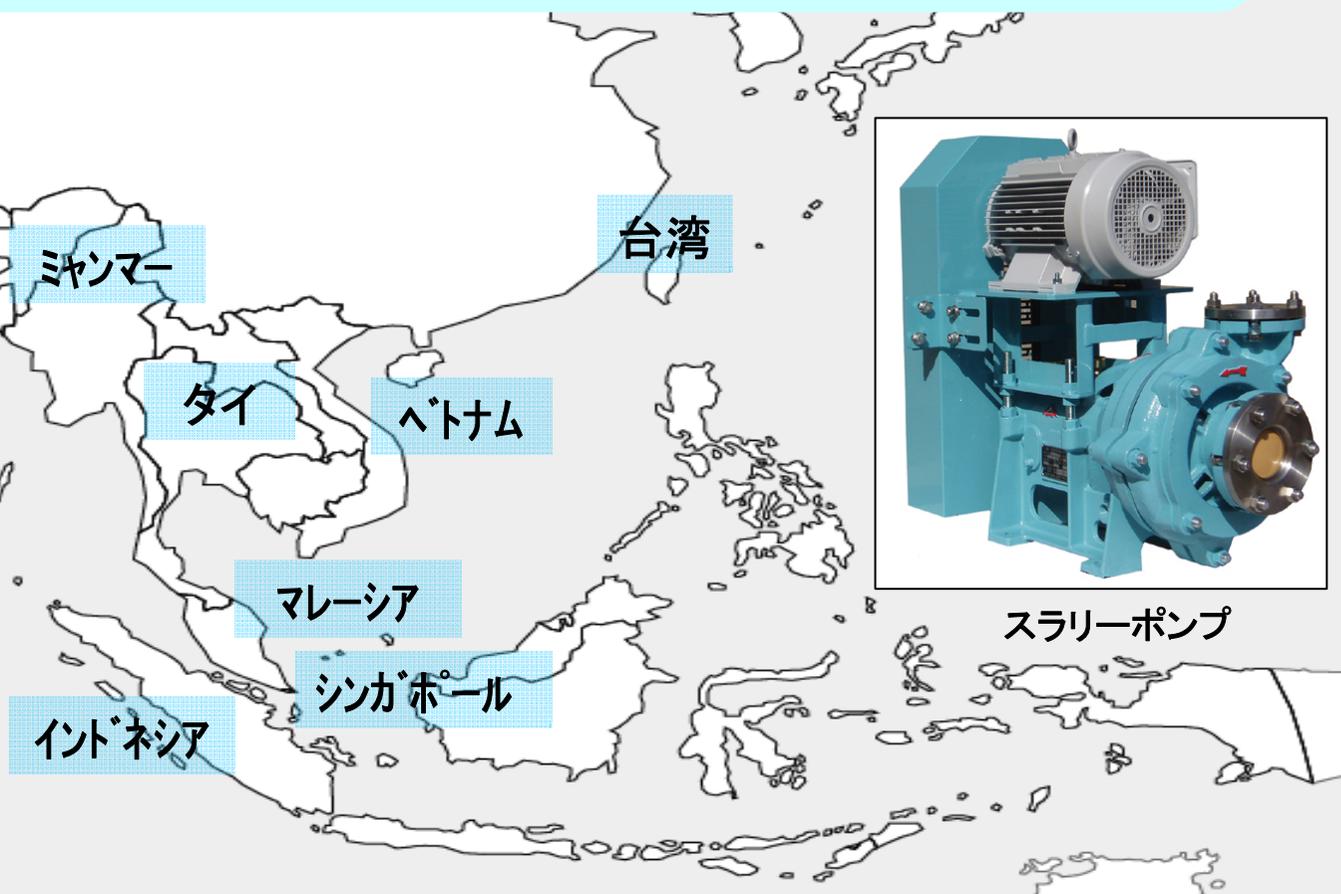
ミニクローラクレーン(自走式)

＜産業機械＞

グループ内海外展開力を活用しながら、スラリーポンプ、クラッシャー、ブリケッティングマシン（造粒機）などを中心に、主にアジア市場を開拓



ブリケッティングマシン



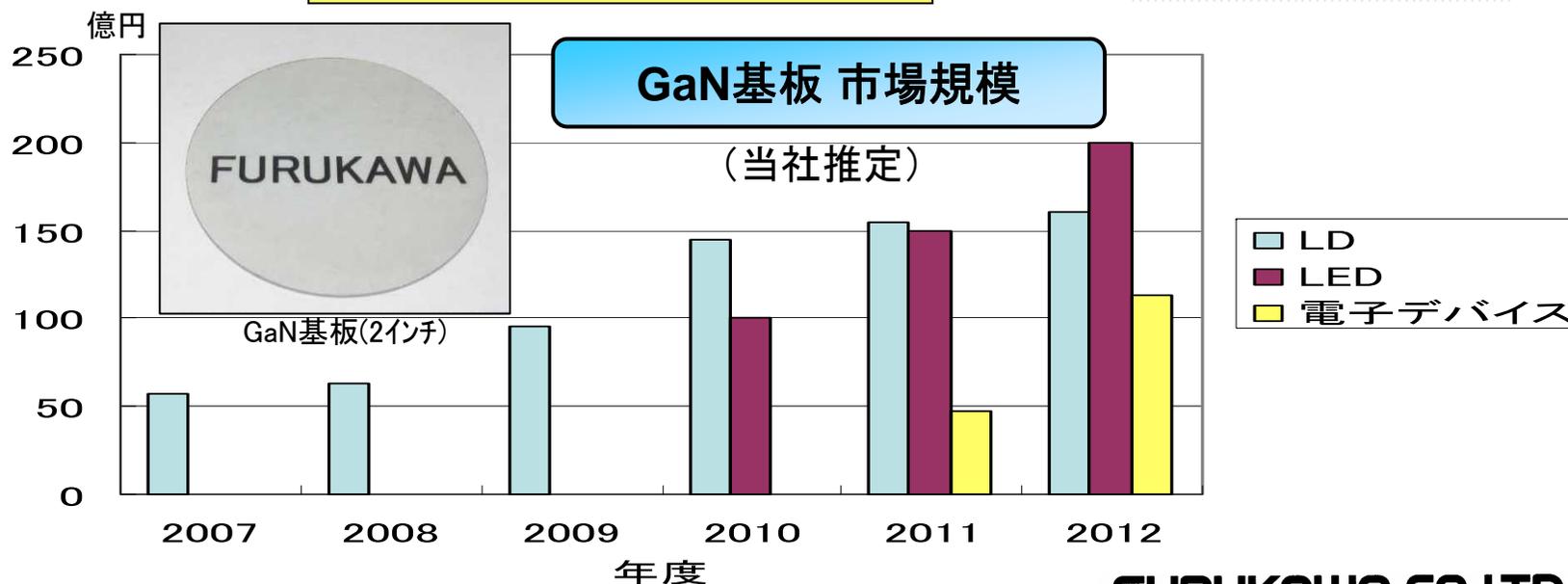
スラリーポンプ

(3) 次世代半導体材料等の新製品の開発と市場投入

<GaN（窒化ガリウム）製品>

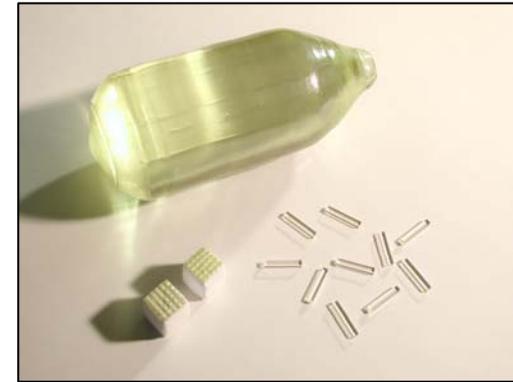
青紫レーザーダイオード、白色発光ダイオード等に用いられるGaN基板の量産化と市場投入

高付加価値製品である電子デバイス用GaNエピ基板の開発

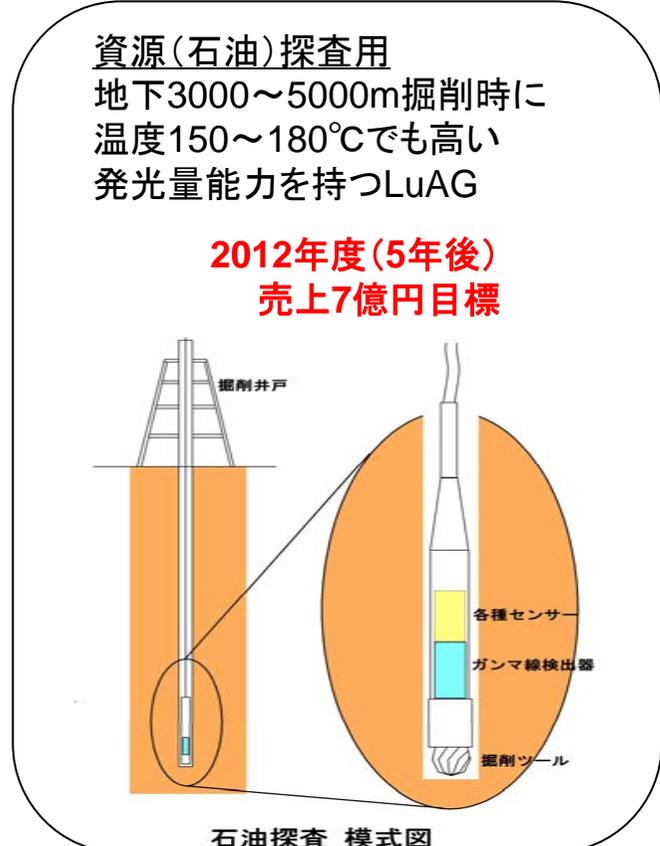
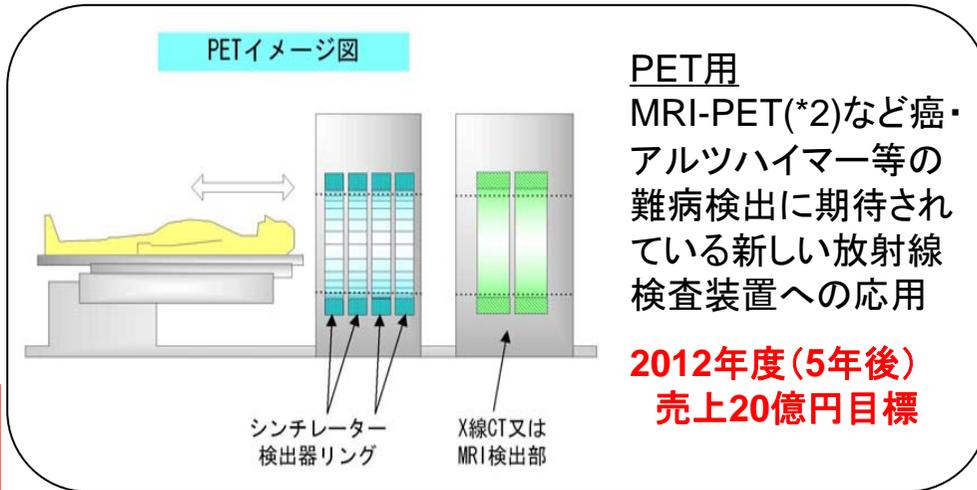


<LuAG (ルチウムアルミニウムガーネット) 結晶>

次世代PET・乳がん検査装置、資源（石油）探査用に期待されている新しいシンチレータ(*1)結晶の開発



LuAG結晶



応用分野



- (*1) 入射した放射線のエネルギーを利用し、発光する材料
- (*2) Magnetic Resonance Imaging - Positron Emission Tomography (核磁気共鳴-陽電子放射断層撮像)
- (*3) Positron Emission Mammography (陽電子撮像乳がん検診装置)



(4) 成長への本格的な仕組みづくり

ナイトライド事業室の新設等研究開発体制を再構築し、次世代戦略商品の市場投入に向け、開発力の強化と事業化を加速

製品毎の縦割りの生産体制を見直し、各工場の得意分野を活用した連携体制を構築するなど、グループ内の最適な生産体制を確立

海外要員、技術者、研究者を始めとした人材の確保・育成並びに及び適正配置

内部統制システムの更なる整備・運用を図るとともに、企業リスク全般のマネジメント力を強化

中期経営計画 設備投資計画

2008～2010年度（3年間） 設備投資総額（計画）180億円
＜05～07年度（3年間）実績120億円＞
〔08～10年度（3年間） 減価償却費107億円〕

〔主な設備投資〕

＜ロックドリル＞増産設備、熱処理設備増設など	50億円
＜ユニック＞増産設備、塗装工場並びに技能講習用研修センター新設など	30億円
＜電子＞GaN基板量産設備、GaNエピ基板開発新棟建設など	24億円



熱処理設備（ロックドリル）

GaN基板（2インチ）



U-can ECO

セグメント別売上高計画



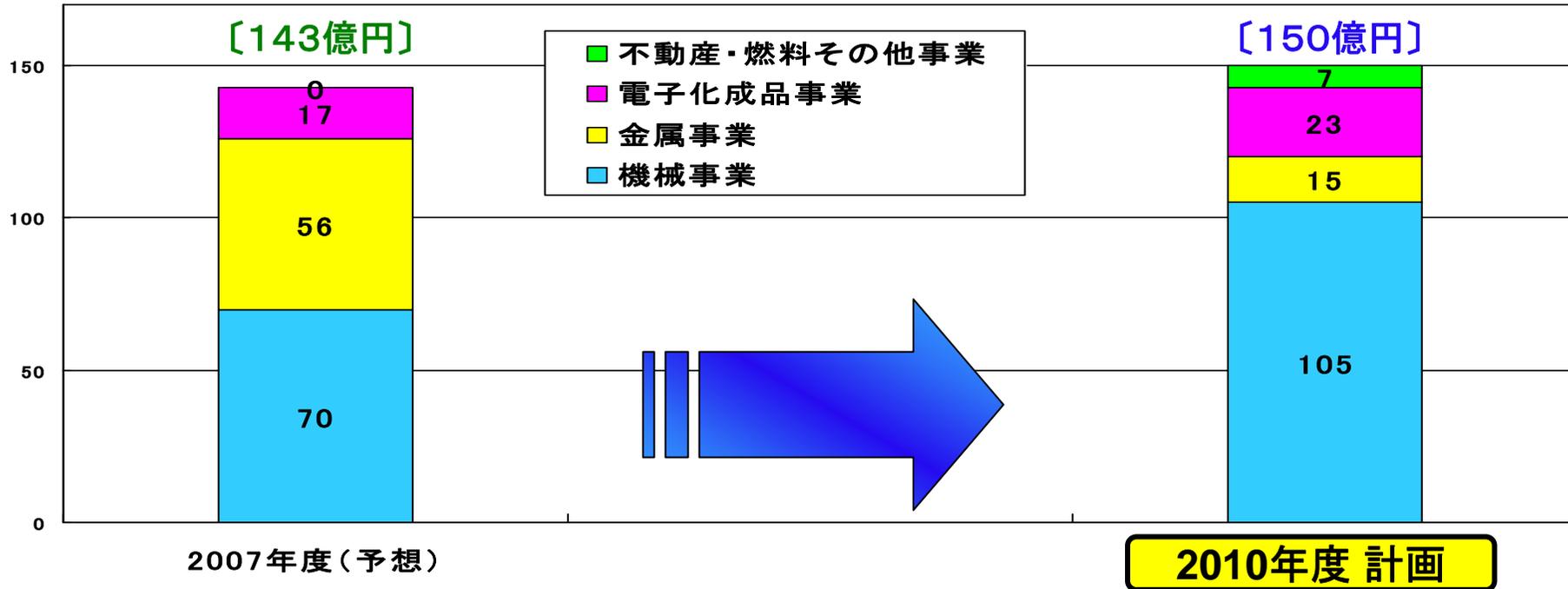
	産業機械	開発機械 (ロケット・リール)	ユニック	金属	電子	化成品	不動産	燃料その他
2007年度(予想)	165	371	214	965	90	64	27	244



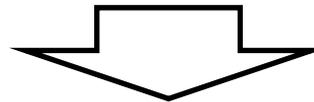
	産業機械	開発機械 (ロケット・リール)	ユニック	金属	電子	化成品	不動産	燃料その他
2010年度(計画)	190	550	350	755	125	70	27	233

セグメント別営業利益計画

(億円)



	産業機械	開発機械 (ロケット・リル)	ユニック	金属	電子	化成品	不動産	燃料その他
2007年度(予想)	8	39	23	56	12	5	7	△ 7



	産業機械	開発機械 (ロケット・リル)	ユニック	金属	電子	化成品	不動産	燃料その他
2010年度(計画)	14	58	33	15	18	5	7	0



△ 古河機械金属株式会社

(注) この資料に記載されている予想数値は、経済状況、業界動向、為替レート、その他業績に与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした予想を前提としており、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値とは異なる可能性があります。